

台湾との技術交流 2017 ②

まちづくり・防災グループ 阿部 充

1. はじめに

リバーフロント研究所では、2001年に台湾の七星農田水利研究発展基金会と「河川水辺環境の技術協力」について合意して以来、台湾と毎年相互訪問をしながら技術交流を続けてきました。

2017年の前半については、既に前号 Vol.85 に記載しておりますのでご参照ください。今号では、例年実施されている日台相互の訪問による技術交流の概要について報告します。

今年は都市防災及び河川空間の利活用がテーマでした。まず、10月23日（月）から27日（金）にかけて、リバーフロント研究所の土屋と阿部の2名が台湾を訪問し、台湾大学で開催された技術交流検討会に講師として参加するとともに、台南市や桃園市などの防災システムや市民防災の現場を視察しました。その後、11月27日（月）から11月29日（木）の3日間、經濟部水利署第十河川局の曾鈞敏局長をはじめとする3名の訪日団が流域総合治水、官民連携、河川区域の民間利活用に関する現場を視察しました。

2. 台湾の現場視察と技術交流研修会

訪台時のスケジュールを以下に示します。

日程	内容 (場所)
10/23 (月)	出国
10/24 (火)	日台技術交流検討会 (台湾大学)
10/25 (水)	現地視察 ・洪水早期警告システム (第六河川局) ・自主防災コミュニティ (台南市) ・スマート洪水対策 (台南市政府)
10/26 (木)	現地視察 ・スマート防災、台湾 SRI (桃園市政府)
10/27 (金)	意見交換会議、帰国

技術交流検討会の前半は都市防災に関するセッションで、日本側からは土屋が「今迫りくる大災害の危機」と題し、日本の災害の被害状況や防災に関する仕組み等について講演を行いました。また、台湾側からは、水利署防災センターの郭純伶主任が台湾における防災対策、防災システムの現状について発表し、更に水利署水利規則試験所の李栄富課長から台湾における洪水ハザードマップの整備経緯について発表がありました。

後半は河川空間の利用に関するセッションで、日本側から阿部が「日本の水辺利用のための制度」

と題し、河川敷地占用許可準則を中心に発表を行い、議論を行いました。

更に、台北市七星農田水利研究発展基金会の莊光明執行長より、これまでの16年間にわたる日本と台湾の技術交流の成果とりまとめに関する発表が行われました。



写真1 技術交流検討会での発表の様子

また現地視察では、毎正時ごとの雨量等データを元にした自動シミュレーションによる河川水位の実測・予測値表示システムの見学や、市民・企業・行政が全体で取り組む防災協力体制の現場の視察など、日本と比較しても先進的な取組についての紹介がありました。

3. 日本の現場視察

訪日団は、11月27日にリバーフロント研究所での説明・質疑を終えた後、28日に「水の郷 さわら」、29日に「渡良瀬遊水地」の各現場を視察しました。



写真2 渡良瀬遊水地現地視察の様子

4. おわりに

最後に、今回の技術交流にあたり、台湾水利署、台北市七星農田水利研究発展基金会の皆様、日本での現地視察に対応いただいた水の郷さわら、利根川上流河川事務所の皆様には大変お世話になりました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。